

# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## ○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム やまぶき
(ユニット名)	1F
所在地 (県・市町村名)	〒515-0045 三重県松阪市駅部田町473番地
記入者名 (管理者)	施設長 井村 文枝
記入日	平成 20年 1月 23日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
1. 理念と共有				
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	「運営理念」の具現化に向け、日々取り組んでいる。	○	設立時以来の理念であり、自分達の入居様達の思い、地域密着型に沿って具体的な理念遂行を検討したい。
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	ケア会議ごとに確認し合い、毎日の申送りをする時にも活かしている。	○	今後も左記を継続致したい。
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	ホーム内玄関、食堂に掲示している。面会に来られた方々には適時説明している。	○	今後も機会ある毎に地域並びに介護する方々への理解・協力を推進いたしたい。
2. 地域との支えあい				
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	散歩にでかけた時に立ち話しや、隣近所の方に野菜をいただいたりしている。	○	機会ある毎に、当施設に対する理解、協力を得るべく働きかけていきたい。
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	バザーに参加したり、草刈・溝掃除といった出合いにも参加して地域との交流を深めている。	○	今後も積極的に参加します。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	玄関に、「AED」設置施設を標榜してある。H19.10.8には、松阪消防署より救急救命士による「救急救命処置」の講習会を地域の方にも参加していただいた。	○	今年、地域の集会場で高齢者の方々に転倒予防体操とか、認知症という病気の話等もおこみ、理解していただくと思っている。3月に予定している。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価する事により、再認識する事もあり新たな思いで仕事をし、指導に対しては改善に努力している。	○	今後も機会ある毎に問題提起を行い、改善に努力する。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族様、自治会長等の意見はあまり聞かれないが、地域包括支援センターの方からのアドバイスは活発で会議に活かしている。	○	第三者の意見に傾注することにより、自己満足することなく更なるサービス向上に努めたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	昨年の自己評価・外部評価における懸案事項であるが、実施には至っていない。	○	施設内における、自己啓発も必須であるが行政機関の指導を受けるようにしたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修で左記の制度を学ぶ機会はある。	○	今後は、機会ある毎に理解習得したい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	昼夜を問わず、介護職員は入居者様に対し虐待行為は決してなされてはいない。	○	ネグレクトを含め、厳に行わない事を職員全員に徹底しています。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居の際、入居者様、ご家族様に見学に来ていただき、入居者様の理解のもと入居してもらっているが入居後、入居者様が自宅に帰りたいと言う事も多々あるが、ご家族様に電話して声を聞いてもらったり、気持ちをそらす等の工夫で大変になった事はない。</p>	<p>○</p> <p>今後もご家族様、ご家族様には安心、安全の行き届いた施設としての役割を果たしたい。</p>
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご家族様より、不満、苦情、投書等今現在までなし。</p>	<p>○</p> <p>入居者様が自由に何でも話し合える雰囲気作りをしている。</p>
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>面会時にそれぞれ報告を行い、入居者様に何かあった場合は電話で連絡している。</p>	<p>○</p> <p>今後も、年に数回の定期的に施設状況、個々の生活の様子など連絡できるようにしたい。</p>
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>気軽に話し合える雰囲気と信頼作りに努めている。</p>	<p>○</p> <p>ご家族様の来所の際には、施設長、ケアマネージャーが面談し意見・要望等の収集に努めている。</p>
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>職員が全体的に介護の方針を決め、皆が情報を共有し統一したケアに活かしている。 更に、経営者に対しての要望等は、定期的開催される「医療介護連携協議会」の場で施設長が提言している。</p>	<p>○</p> <p>適時、経営者の代行者が当施設を訪れた際、申し伝え反映させている。</p>
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>施設の催し物を実施する際には、職員の人員配置に配慮する等臨機応変に調整している。</p>	<p>○</p> <p>今後も充実したサービス提供ができるように勤務体制は配慮したい。</p>
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>交代の時、介護に支障のないよう配慮している。</p>	<p>○</p> <p>常に、入居者様主体の配慮に心がけたい。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	南勢病院にて、介護に関わる勉強会には参加し、三重県グループホーム協会主催の研修会等にも職員が交互に参加している。研修後は内容を適時他職員に伝達している。 H19.12.25ヘルパー2級の資格取得者1名	○ 栄養士が本年管理栄養士資格取得受験の予定
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会、研修等の場で、情報交換をしてサービス向上を図っている。	○ 今後もインターネットによる情報収集も含め、他施設の良い点の吸収に努めたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	風通しのよい職場環境作りに努めている。	○ 今後も左記を継続致したい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	カンファレンスや毎朝の申送り後、短い時間ではあるが勉強、情報交換をしている。 施設長は、現場主義で一緒に働き一緒に悩み、相談にのってくれる。	○ 全職員が自己啓発に努め、サービス向上に邁進したい。
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご本人様の要望に答え、旦那様の入院先へ面会に行ったりしている。 外食会や外出もしている。	○ 入居者様との関係を密にして、職員で取り組んでいる。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家庭訪問にて、生活環境等をご家族様から情報収集し、私達は入居者様はそのスタイルを変えないように努めている。 更に、入居当初は電話等にてご家族様へ頻りに連絡を密にしている。	○ 今後も入居者様の生活環境の変化が極力影響を及ぼさないように努める。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族様、職員、ケアマネと話し合う場合により、他施設を紹介する場合もある。	○	常に、入居希望者様並びにご家族様の当施設に対するサービス要望が出来るか否かを見極めている。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	「体験入居」を実施する事により、入居者の方とご家族様が話せる機会を設け、安心してから入居していただいている。	○	今後も左記を実践したい。
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	高齢の方が多く、昔話などをよく知っており職員に教えていただき信頼関係を作っている。	○	今後も人生の先輩として信頼関係を保っていきたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	「見てもらっているから低姿勢の方が…」と思わせないよう、ご本人様の出来た事にご家族様と一緒に喜び又、介護の工夫の相談をしてその人らしさの支援をする。	○	極力、ご家族様にもご本人様お呼び等施設に関わってもらおうと努めます。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	認知症をご家族様に十分に理解していただくと共に、当施設においての生活状況を知っていただく事により、ご家族様と共同で介護をする状態を築いている。	○	理想通りにはいかないケースもあるが、改善に努めたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	従前は、入居者様の幼馴染の方々の訪問事例はないが最近、近隣の方の入居により馴染の方の訪問がある。	○	電話での取り次ぎもよくあるが、快く受け入れている。面会の方も受け入れている。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	遊びを通じて、入居者様同士が関わりを持ちお話されている。	○	今後も各入居者様の心身状態を常に把握するよう努める。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	病院へ入院された場合は、お見舞いに行ったり、ご家族様との相談、連絡を密にしている。	○	今後も左記を実践したい。
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個人的な話し合いをして、その人らしい暮らし方になるよう努力している。	○	常に、本人本位の思いを尊重しサービス提供を致したい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様、他施設の利用者の場合はその施設の担当者により情報を収集し、当施設内での生活にプラスになるよう努力している。	○	今後も左記を継続したい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎朝の状態により、体調、精神状態がわかる。それにより生活支援を行っている。	○	常に入居者様の個々の心身状態の把握、理解に努める。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	センター方式を用いて、その人らしさを抽出しケアマネジャー・計画担当責任者を中心に全員でプラン作成に取り組んでいる。	○	今後も入居者様の介護を計画・実践・反省を繰り返したい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	新たな課題は、赤ペンで追加し3ヶ月毎の評価を行い、計画変更の必要が生じた際には、その都度ご家族様にみてもらい意見を聞く。	○	入居者様の心身状態の変化を常に把握し、その方に適した介護実践を行いたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別カルテに心身的状態、バイタル、行動障害、私の言った事、表情等を記録し、共有し統一した介護に活かしている。	○	左記を継続致したい。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入所者様の配偶者が他施設入居あるいは、病院に入院中等は、職員が付き添って面会の援助をしている。	○	今後も入居者様の要望に応じた対応を致したい。
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	以前に当施設の入居者様の配偶者の方が随時、ボランティアとして介護奉仕に来所していただいている。	○	今後も地域の関係各機関と協働致したい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他施設のケアマネージャーと情報交換をしている。	○	運営推進会議にて、参加された包括支援センターのケアマネージャー等より情報収集に努めたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議にて、協働に努めている。	○	今後も左記を継続致したい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	慢性的疾患は本人のかかりつけ医に、突発的病状に対しては、近隣クリニック及び、協力病院に受診している。ご家族様へ連絡のもと職員が連れて行ったり、ご家族様の都合がつけばお願いしている。	○	入居者の方々は、高齢者のため身体に急激な変化が生じる事があるので、常に状態把握に努めている。



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	○	今後も協力体制を堅持したい。
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	○	今後も左記の体制を保ちたい。
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	○	今後も相手機関との連携協議を密にしたい。
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	ご本人様並びにご家族様の意向に則した対応を致したい。
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	今後入居者様の経年に伴い、発生が十分に予想されるので対応準備を行いたい。
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	○	今後も退所される際には、ご本人様、ご家族様のケアには充分配慮致したい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	○	各人の誇りやプライバシーを守る事はもちろん、個人情報については必要最小限の記録に留めている。
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	○	個人個人の自己決定を尊重した介護体制に努めたい。
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	○	自己決定が出来ない入居者様にも極力希望に沿った日々が過ごせるようにしたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	○	極力、自由な身だしなみができる環境を整えたい。
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	○	左記を継続致したい。
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	○	嚥下状態を観察の上、入居者様の要望を実現したい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個人の排泄リズムに基づき、排泄介助時刻を早めたり遅くしたり工夫している。	○	左記を継続致したい。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間は、曜日・時間帯を施設側で決めている。	○	今後は極力入居者様の希望を取り入れたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	個人個人で対応している。	○	左記を継続したい。
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりにやりたい事を聞き、音読、計算、塗り絵、写経、カラオケ、散歩、役割、施設・病院への家族の面会等をケアプランに入れている。	○	左記を継続したい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	普段は、個々人のおこづかいを事務所で管理・保管しているが買い物の時等に渡している。 おこづかいの使用明細は、毎月利用料請求時にご家族様に送付している。	○	今後も左記を継続致したい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	各入居者様の身体状況を把握した上で徒歩あるいは、車椅子にて近くに公園へ、天候が良い時には散歩に行く。	○	天候に左右されているが、基本的には1日1回は戸外に出る習慣を検討中。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	季節に応じて、外出している。(花見、ドライブを兼ねてみかん狩り等) 普段行けないところ、個別に行きたいところ等はご家族様に協力してもらって行っている。	○	今後も外出支援は積極的にやりたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	全員ではないが、可能性のある方にしている。 年賀状、荷物の札状を出したりしている。	○ 今後も入居様の意思を尊重した対応を致したい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	個室のため、快く受け入れてご本人様達だけでお話できるので、気軽に訪問できると思う。	○ 左記の雰囲気を持したい。
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>			
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束廃止」の宣言どおり入居様の人権を重んじ一切していない。	○ 今後も身体拘束をしないケアの認識を共有する。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室の鍵はした事ないが、玄関のみしている。(外部からの侵入者を防止するため)	○ 今後も左記のように対応したい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	個々の状態を把握して、見守り、声かけをしている。	○ 今後も左記の対応を致したい。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	ハサミ等刃物類の使用の際は、十分に注意を払っている。杖と言えども、入居者様の心身状況に応じて施設側が保管する事がある。 誤薬防止の為、入居者様の薬は全て施設が保管し、服薬時は職員が手渡し、服薬確認している。	○ 今後も左記を継続致したい。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	認知症の方と接し、ヒヤリハットを含め多くの事例を知っている事により、起こりうる事故が未然に防ぐ様努めている。その為には個別ケアをし情報を共有しみんなが安心して出来る職場を目指している。	○ 左記を実践することにより安心・安全な施設作りを目指す。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救急対応マニュアルで周知徹底されている。(協力病院との連携体制は完備している。)	○	入居者様の高齢化に伴い、緊急時対応には今後も充分に対応いたしたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災訓練を定期的実施している。運営推進会議において、自治会長を通じ地域へ協力をお願いしている。	○	地震・水害を想定した訓練は、今後実施したい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	その人の事をよく知り、多く接し、個別ケアをする事で起こりうる事故を未然に防げるのではないかと。入居者様をよく見る事をしている。	○	今後も左記を継続致したい。
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	バイタルチェックとその人をよく知る事で、病気の早期発見に努め、状態に応じてご家族様に連絡し、かかりつけ医・救急病院へ速やかに対応している。	○	今後も左記を継続致したい。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	新薬についてはその薬の効果を理解するとともに、常に服薬後の観察を充分に行い、変化を早く発見する事に努めている。	○	今後も左記を継続致したい。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	体操、腹部マッサージ、水分補給等を行い自然な排便を促すようにしている。	○	今後も左記を継続致したい。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の歯磨きの声かけや力に応じ、職員が見守ったり、介助を行っている。就寝前は、義歯洗浄・消毒を行い口腔ケアに努めている。	○	今後も食の楽しみを持続していただくよう努めたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分補給など個人的に対応している。入居者様の嚥下機能を観察し食べやすい大きさにするなど個人々人への対応をしている。	○	今後も入居者様個々の状況把握による摂取支援を行いたい。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	『感染防止マニュアル』が各階に設置されており、全員で学習し予防対策を努めている。インフルエンザは、ご家族様に同意をいただき職員も予防接種を受けています。	○	今後も感染予防には最大限の努力をいたしたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板・包丁の熱湯消毒、布巾のハイター消毒をしている。食材は毎日購入し、買いすぎないようにしている。	○	今後も左記を継続したい。
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関の横に6台駐車場を設け、前にはベンチが3個あり、散歩途中の高齢者が腰掛け休まれている。入り口は、バリアフリーにしてある。靴の履き替え等が安全に出来るよう椅子を常備している。	○	安心・安全に今後も心がけたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	花・置物・壁掛け等により生活観や季節感を取り入れ、入居者様の居心地に常に配慮している。テレビの音や季節に応じた採光にも充分配慮している。	○	今後も左記を継続致したい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	生活面には、常に配慮し、換気・空調・室温・照明には殊に注意し、テレビの音量等にも配慮している。又、感性への働きかけとして季節の草花、祭事の写真、作品等も適時展示している。	○	今後も左記のように対応したい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンス・椅子以外にも、写真、装飾品を壁に飾っている。	○	極力、ご自宅での生活に近い想いを持っていただけるよう配慮いたしたい。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	フロアは、適時に換気しており冷暖房は冷しすぎず、暑すぎないように入居者様の発汗・冷えなどに注意して調整している。紙パンツ・パット等の汚染したものは、新聞紙に包みその上、ビニール袋に包んでポリバケツに入れているが、こまめに屋外のダストボックスに入れている。	○	今後も左記のように対応いたしたい。
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーになっており、車椅子・シルバーカーを使用される方も安全に移動できる。歩行バランスに対応できる様に毎朝、転倒予防体操をしている。	○	個々の身体状況に応じ、事故防止に努め安全を最優先に対応している。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	本人の出来る事、出来ない事を見極め、出来る事に目を向けその人を見守り適宜介助にて自立への手助けを行っている。	○	経年による心身の低下を阻止遅延を心がけた対応を致したい。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	花壇にチューリップを植えたり、少しだけだが、野菜を作っている。	○	職員駐車場の奥に菜園花壇を早期に作りたい。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない



項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
		<input type="radio"/>	②数日に1回程度
		<input type="radio"/>	③たまに
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている
		<input type="radio"/>	②少しずつ増えている
		<input type="radio"/>	③あまり増えていない
		<input type="radio"/>	④全くいない
98	職員は、生き活きと働いている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input type="radio"/>	②職員の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input type="radio"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

認知症の方は、環境によって良くも悪くもなる。環境の形成要素には職員の対応が当然含まれる。その為には、職員全員が研修・勉強会等を通し認知症の正しい理解が出来る様取り組んでいる。ケアマネジメントの現場では、入居者様が困っている事をサービスに結び付けて困りごとを解消できるように努力している。更には、常に「安心・安全」を最優先に介護に取り組んでいる。